

# オーケストラ・アンサンブル金沢

オーケストラ・アンサンブル金沢 武豊公演

オーケストラ・キャラバン ～オーケストラと心に響くひとときを～

指揮：ギュンター・ピヒラー ヴァイオリン：岡本誠司

管弦楽：オーケストラ・アンサンブル金沢

**批評家たちが熱狂！本物のスケールを持つ巨匠と、王者の風格を持つ若きヴァイオリニスト この二人の競演を見逃す手はない！**



批評家たちが熱狂する世界最高峰のヴァイオリニストの一人、ギュンター・ピヒラーは、18歳にしてウィーン交響楽団のコンサートマスターに就任、程なく名指揮者カラヤンにウィーン・フィルのコンサートマスターに抜擢された。さらに40年近くアルバン・ベルク弦楽四重奏団の第1ヴァイオリニストとして、世界の主要コンサートホールで、偉大な傑作の数々を最高の水準で演奏するという、演奏者にとって夢のような経歴を持ったアーティストだ。2008年に四重奏団が解散すると、指揮者としての活動を活発化させ、現在も世界各国の主要オーケストラと共演し続けている。

ピヒラーの指揮は、演奏者の力を余すことなく引き出し、観客を楽しませてくれるに違いない。

ヴァイオリン・ソロは岡本誠司。サッカー選手や宇宙飛行士が夢だった少年が、幼いころにヴァイオリンと出会い、持って生まれた才能と恩師に恵まれ、ヨーロッパへと開花していく。パッサン国際コンクールで、アジア人初優勝ほか、数々のコンクールで優勝、入賞し、2021年には難関ミュンヘン国際で優勝を果たす。

現在はドイツと日本を拠点に、数々のリサイタルに出演する他、クラシック界の革命児、反田恭平率いる実力派若手ソリスト集団、JNO(ジャパン・ナショナル・オーケストラ)でコンサートマスターを務めている。

今回は、ピヒラーが名誉アーティストック・アドバイザーを務めるオーケストラ・アンサンブル金沢とともに、バガニーニ／ヴァイオリン協奏曲第4番ニ短調を演奏、そしてピヒラー指揮オーケストラ・アンサンブル金沢による名曲シューベルト／交響曲第8番ロ短調『未完成』などをお贈りする。

## 公演情報

- と き 2023年12月3日(日)14:00開演
- と ころ 輝きホール(全席指定)
- 料 金 【前売】一般 3,500円 ゆめプラメイト 3,000円 25歳以下 1,000円  
【当日】一般・ゆめプラメイト 4,000円 25歳以下 1,500円
- 取扱い ゆめたろうプラザ／チケットぴあ [Pコード 244-523]
- 主 催／(公社)日本オーケストラ連盟・(公財)石川県音楽文化振興事業団・NPOたけとよ・武豊町教育委員会
- 助 成／文化庁文化芸術振興費補助金(統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2))独立行政法人日本芸術文化振興会



## ●シューベルトが生きたウィーンのヒット選

ピヒラー老が第1ヴァイオリンに座り世界の頂点に君臨した名弦楽四重奏団は、アルバン・ベルクという現代音楽の開祖の名の前に、音楽の都ウィーンを冠していた。指揮と後進の指導に専念するようになってはや15年、円熟の時に至ったこのウィーン人は、もう自分の素性を隠しはしない。気心知れたOEKと披露するのは、作曲家としての道に迷うシューベルトの目から眺めた1820年代後半のウィーン音風景である。

重厚で劇的なロ短調交響曲を濃密な歌の楽章までは完成したシューベルトだが、続く舞曲楽章とフィナーレを書きあぐんでいた。その頃のウィーンは、ナポレオン戦争の混乱も収まり、ノンポリでいる限りはそこそこ良い時代。ベートーヴェン流の熱い主義主張は時代遅れ、巷で流行するのは耳に心地よいイタリアオペラやソリストの超絶技巧だった。ロッシェニの純粹すぎる楽しさに触れオペラ作家への転身も考えた歌曲王は、大スターバガニーニを聴けば楽器が奏でる緩徐楽章の歌を大絶賛する。ピヒラーが奏でてくれるのは、若すぎる死に向かう数年にシューベルトが憧れるも、決して届かなかった響きたち。ロッシェニの若書きと晩年の序曲では、管楽器が歌いクレッシェンドが爽やかに駆け抜ける。日本の若き知性派ヴィルトゥオーゾは、バガニーニ晩年の協奏曲に天才が生涯探求した技巧を突き詰められた先を覗かせる。こんな音達に囲まれ、「未完成」は未完に終わった。

文：渡辺和(音楽ジャーナリスト)